

平成 28 年度 KICS 外部評価委員会 議事要録

日 時 平成 28 年 7 月 8 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30
場 所 高知大学朝倉キャンパス 本部管理棟 5 階 会議室
出席者 別紙のとおり

次第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 平成 27 年度外部評価委員会指摘事項に対する対応について
 - (2) 平成 27 年度補助事業実績報告について
 - ①事業目的別分類：教育
 - ②事業目的別分類：研究等
 - ③事業目的別分類：社会貢献
 - ④事業目的別分類：全体
 - (3) UBC 活動報告
3. 講 評
4. 閉 会

委員会資料

- 資料 1 平成 27 年度外部評価委員会 指摘事項対応
資料 2 自己評価書 (事業目的別分類：教育)
資料 3 自己評価書 (事業目的別分類：研究等)
資料 4 自己評価書 (事業目的別分類：社会貢献)
資料 5 自己評価書 (事業目的別分類：全体)
資料 6 UBC 活動報告 (各 UBC 別)
資料 7 外部評価フレーム (平成 27 年度最終版)
資料 8-1~8-5 各種アンケート結果 (学生・教職員・自治体・企業)
資料 1-1~5-3 各種参考資料
別 添 平成 27 年度 COC/COC+全国シンポジウム報告書
机上配布 進行表

1. 開 会

櫻井理事から開会の挨拶が行われ、議事に先立ち、外部評価委員の紹介及び委員から挨拶が行われた。

次に事務局から平成 28 年度 KICS 外部評価委員会の概要、進行について説明があった。

2. 議 事

(1) 平成 27 年度外部評価委員会指摘事項に対する対応について

資料 1 に基づき、吉用部門長から、平成 27 年度外部評価委員会指摘事項に対する対応について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答があった。

眞鍋委員長：「平成 28 年度中に KICS の継続のための検討会を立ち上げる。」とあるが、現時点で想定しているメンバー構成を教えて欲しい。

吉用部門長：UBC4 名と、高知県地域産業振興監 7 名を中心に構成し、KICS のこれまでの成果および今後の活動について検討する場とすることを考えている。

(2) 平成 27 年度補助事業実績報告について

①事業目的別分類：教育

資料 2 に基づき、吉用部門長から、平成 27 年度補助事業実績報告の教育分野について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答があった。

眞鍋委員長：専門教育科目において、「地域関連科目」として認定される基準は何か。

吉用部門長：教育内容に「地域＝高知」に関連する事項が入っていることと、シラバスに「地域関連科目」であることを表記することで、学生からも「地域関連科目」であることが分かるようにしている。

眞鍋委員長：地域協働学部の学生について、一期生の県内出身者の比率はどれくらいか。

芝課長：約 25% (17 名) である。

井上委員：「地域関連科目」において、1 科目につき何回程度地域に関連する授業を行っているのか。

吉用部門長：全 15 回の授業のうち、最低 1 回は地域に関連する授業を取り入れることとしている。

②事業目的別分類：研究等

資料 3 に基づき、石塚副センター長から、平成 27 年度補助事業実績報告の研究等分野について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答があった。

井上委員：ココプラの設置以来、予想を上回る成果を挙げていると感じているが、その要因についてどう考えているか、教えていただきたい。

石塚副センター長：ココプラのコーディネーター会議を毎月開催しており、参加している県内各高等教育機関の取り組みについての情報共有や相談、シーズ紹介を行える場が構築されていることが要因の一つであると考えます。

ただ、毎週ココプラで開催されているイベントの最終的なフォローが出来ておらず、それをいかに行っていくかが今後の課題であると考えます。

大崎 UBC：ココプラ内で、各大学がそれぞれシーズを相談し合える場があり、「横の繋がり」を作ることが出来ている。

吉澤委員：ココプラの活動が活発に行われていることは良い。今後はイベント等のフォローを含め、活動の整理を行っていく必要がある。

受田センター長：今後、ココプラ内で各大学が色々な研究を一緒に行えるような広いスペースを確保しようという考えもあり、多くの人々はココプラが次の段階へ進むことを期待している。ただ、現状はイベント等で忙殺されている面もあり、次の段階へ進むための議論を行う時間を確保出来ないのではないか、という懸念がある。

眞鍋委員長：「地域志向研究経費」と「学生の県内定着または雇用創出に係る研究経費」との融合を図る。」とあるが、「学生の県内定着または雇用創出に係る研究経費」が「地域志向研究経費」に取って代わるということか。

石塚副センター長：その通りである。COC+事業の予算と合わせながら、出来る限り研究経費を確保するため、地域志向の研究を進めながら雇用の創出につながる新たな経費を新設した。

③事業目的別分類：社会貢献

資料4に基づき、吉用部門長から、平成27年度補助事業実績報告の社会貢献分野について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答があった。

吉澤委員：土佐FBC東部教室について、UBCはどのように関わったのか。

赤池UBC：開講に先立ち、地域にどれくらい受講したいと考える人がいるか、どのようなことを学びたいかを調査した。また、私自身が講師としての立場でも関わった。

眞鍋委員長：地域再生研究会やUBC地域相談会で得られた成果や資料等は、外部に公開しているのか。その場限りで終わってしまうのはもったいないので、可能であれば公開してはどうか。

吉用部門長：現在のところ公開はしていない。しかし、中には公開出来るものもあると思うので、今後整理をしていく。

眞鍋委員長：土佐FBC教室にUBCが関わることによって、FBCが地域に定着しており、地域に良い効果を与えている。FBCとUBC、2つの軸が整ってきているという印象を受ける。

④事業目的別分類：全体

資料5に基づき、吉用部門長から、平成27年度補助事業実績報告の全体分野について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答、報告があった。

吉澤委員：COCシンポジウムを地元で開催するにあたって、何かメリットはあったか。

受田センター長：「COCを成功に導く」という思いを主張し、先導していくことは課題先進県である高知にとって大きなメリットである。また、経済効果も大きいので、高知でシンポジウムを開催することについては、今後も前向きに考えていく。

櫻井理事：高知県地域社会連携推進本部会議においては、高知県側と意見交換を行うことによって互いの信頼関係を築くことができ、地域活動に良い影響を与えている。

(3) UBC活動報告

資料6に基づき、各UBCから、着任から今までの活動や住民意識及び評価等の内容について説明があった。なお、説明後に以下の質疑応答があった。

眞鍋委員長：えんむすび隊の活動や準正課の活動、学生の地域における自主的な活動において、良い点や課題となる点があれば教えて欲しい。

赤池UBC：安芸地域では地域協働学部の実習地が無く、えんむすび隊による単発の活動が主となるが、えんむすび隊からの派生で、学生団体の地域での活動をサポートする仕組みである「コラボ考房プロジェクト」が立ち上がった。課題としては、学生への食事の提供等にかかる金銭的な問題と、教育の観点から準正課活動を行っているという事を、自治体や地域住民と共有していく必要

があると考える。

大崎 UBC : 受入側である地域の課題として、商工会議所等の担当者が異動により変わってしまふと、これまでの関係性が途切れてしまうといった事があり、今後地域側と長期的な目標や意識について共有を図っていく必要がある。

眞鍋委員長 : 学生が来ないと地域が動かない、というような事象は発生していないか。

大崎 UBC : そういった地域もある。その一方で、「学生が来てくれるから活動を続ける」といった前向きな発言もある。

吉澤委員 : 自治体の総合戦略の策定に関わってみて、自治体によって取組みに対する意識に差はあったか。

岡村 UBC : ご指摘のとおり、自治体によって差はある。どのように取り組んでいいかわからないために、取組みに消極的だった自治体もあった。ただ、1年間サイクルを回したことで、自治体も取組みに対する理解を深めており、今後レベルアップしていくのではないかと考える。

眞鍋委員長 : UBC として業務を行うにあたり、自身のキャリア形成にどのような影響を与えているか、教えていただきたい。

梶 UBC : これまでの実務経験が、UBC 活動に非常に活かされている。

岡村 UBC : プロジェクト等の運営に参画し、現場での経験を蓄積できることはプラスになっている。一方で、研究活動が減少し、インプットが非常に少なくなっている。

大崎 UBC : 様々な地域・組織の方々に関われることは、UBC でなければ出来ない経験である。

赤池 UBC : 教育面において、授業や準正課活動等で学生と関わることは、自身のキャリアとなっている。研究面では、魚梁瀬森林鉄道の日本遺産への申請において、自分の専門性を地域から求められている。

3. 講 評

各委員が講評事項について 25 分程度の打合せを行い、委員を代表して眞鍋委員長から講評が行われた。講評内容は以下のとおり。

事業全体としては、順調に進んでいると見える。今後の要望は、以下の三点。

- ①地域における UBC の在り方が明確になってきている中、UBC の役割のドメインは設定しつつも、周辺の新しいシーズ・ニーズを発掘するような活動を引き続き行っていただきたい。
- ②ココプラの活動について、素晴らしい成果を挙げていると考えるが、今後は質の向上を図り、活動の成果を地域に還元・アピールを行っていただきたい。
- ③学生の教育面について、今後、学生の学びがさらに深まるような手法やプログラムの設計を行い、真の地域型・実践型教育について知見を深めていただきたい。

4. 閉 会

受田地域連携推進センター長から講評で頂いた意見を真摯に受け止め今後の活動に生かすこと及び委員会への謝辞と閉会の挨拶が行われた。

以上

平成 28 年度 KICS 外部評価委員会出席者名簿

≪外部評価委員≫

氏 名	所 属	備 考
眞鍋 和博	北九州市立大学 地域創生学群長、地域共生教育センター長	委員長
井上 哲郎	高知市 副市長	委員
吉澤 文治郎	ひまわり乳業株式会社 代表取締役社長	委員

≪高知大学≫

氏 名	所 属	備 考
櫻井 克年	理事（総務・国際・地域担当）	KICS 化事業実施担当責任者
受田 浩之	地域連携推進センター長	
石塚 悟史	地域連携推進副センター長	
吉用 武史	地域連携推進センター域学連携推進部門長	
赤池 慎吾	高知大学地域コーディネーター（安芸地域担当）	
大崎 優	高知大学地域コーディネーター（高知市地域担当）	
岡村 健志	高知大学地域コーディネーター（幡多地域担当）	
梶 英樹	高知大学地域コーディネーター（嶺北地域担当）	
平井 敏彦	研究国際部部長	
芝 弘行	地域連携課課長	
片岡 清茂	地域連携課課長補佐	
小島 真一	地域連携課域学連携推進係係長	
川口 俊司	地域連携課域学連携推進係係員	
鈴木 敦士	地域連携課域学連携推進係係員	
吉川 依里	地域連携推進センター特任職員（広報担当）	
大道 知未	地域連携推進センター特任職員（教育担当）	
横山 光一	高知大学自治体連携コーディネーター	
川澤 慶洋	地域連携推進センター地方創生推進部門長	